

【様式1】

団体名 沖縄県立南風原高等学校	連絡先 TEL：098-889-4618 Eメール： matsubry@open.ed.jp
---------------------------	--

「させて 誉める」～生徒の意欲・自己肯定感を高め学力向上に繋げる取り組み

1 実践内容

1 オンライン授業の取り組み

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、6月には一斉休校と分散登校、9月には分散登校の措置が施された。高校生の学びを保証するとともに、学習の遅れを最小限に抑えるため、本校ではリモート授業やオンデマンド授業、ハイブリッド型授業（リモート授業と対面授業の同時並行）を行った。Microsoft365のTeamsを通して、生徒全員と繋がる事ができるため、一斉休校や分散登校の際の連絡網として活用した。教科や科目によって、リモート授業を実施したり、解説動画等を作成しオンデマンド形式で授業を展開したりするなどして、学習内容の定着を図った。

2 習熟度別クラス・少人数クラス配置による「わかる授業」の実践

(1) 習熟度に応じて10名～30名の展開クラスを編成

①学期毎にクラスを再編成

定期試験や授業態度を含め、生徒の授業理解の度合いと学習環境を見て判断する。

②生徒の意思を尊重

学習単元の内容によって理解度が異なる場合もあるため、生徒自身の目標や希望を聞き単純に試験結果だけでクラス異動の判断を決定しないよう留意する。

(2) Microsoft365のTeamsやFormsの活用

①授業の板書や演習問題の解説をTeamsにて配信

②Forms（アンケートシステム）を用い課題の提出や授業の振り返りを実施

(3) 電子黒板の活用

①教科に特化したアプリや動画を活用し、生徒の興味関心を高める。

(4) 履修内容の理解不十分な生徒に対する課外授業実施

①夏季休業中に対象生徒へ復習授業を実施し、苦手意識を軽減し2学期への学習意欲へ繋げる。

3 授業開始前の朝の学習 「朝学」実施による学習習慣の確立

(1) 目的

① 基礎的な内容を学習することで、授業の補完をする。

② 学習にふさわしい環境をつくり、授業に落ち着いた態度で臨めるようにする。

(2) 実施方法

① 毎朝 SHR 前の8:50～9:00の10分間で実施する。

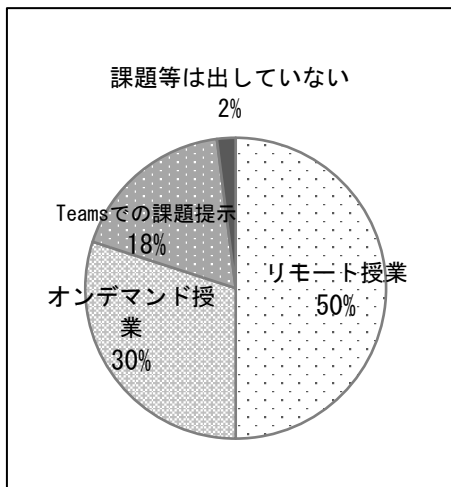
② 実施教科は、国語・数学・英語・理科・社会の5教科とする。

③ 終了後担任・副担任にて回収・チェックを行う

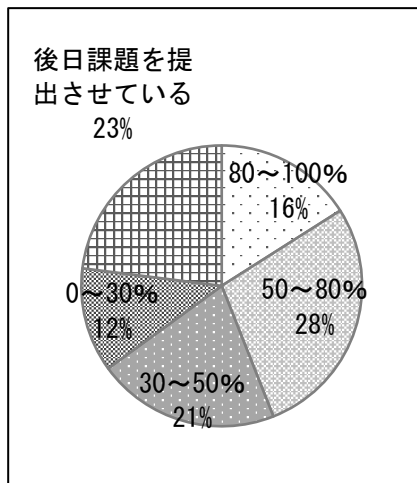
2 説明資料

1 オンライン授業の取り組み

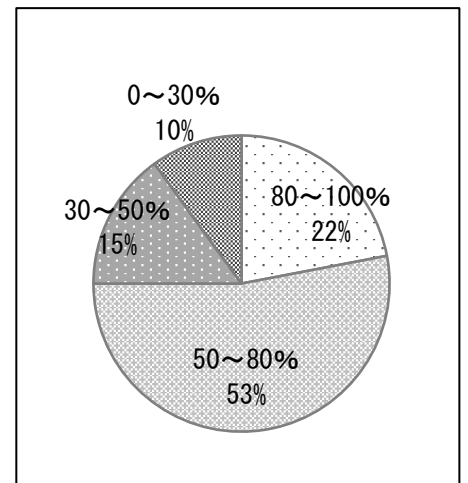
・9月の分散登校時の
オンライン授業の形態



・リモート授業の生徒の
参加状況



・課題の提出状況



2 習熟度別クラス・少人数クラス配置による「分かる授業」の実践

生徒が受信する Forms

4. 今日の内容の理解を添付して下さい。
(最大4枚まで) (添付名の制限なし) (25点)

5. 本時の振り返り。授業内容について、

- よく理解できた (自分で解けた)
- 多少の理解できた (自分で解けなかった)
- あまり理解できなかった
- 全く理解できなかった

6. 質問や伝えたいことがあれば記入してください。(5)

生徒が教師へ送信するノート画像

練習 30

$$D = b^2 - 4ac$$

$$D = (m+2)^2 - 4 \times 1 \times (m+5)$$

$$= m^2 + 4m + 4 - 4m - 20$$

$$= m^2 - 16$$

$$= (m+4)(m-4)$$

$$m = 4, -4 \quad m^2 = 16$$

$$m = 4 \text{ の } x \text{ は } \quad m = -4 \text{ の } x \text{ は}$$

$$\frac{-16 - 16}{2} = \frac{-32}{2} = -16$$

$$x^2 + 6x + 9 = 0 \quad (x+3)^2 = 0 \quad x = -3$$

$$\frac{16 - 16}{2} = \frac{0}{2} = 0$$

$$x^2 - 2x + 1 = 0 \quad (x-1)^2 = 0 \quad x = 1$$

課題提出状況を把握

0951 授業14 数 学I 課題提出も履 行	09414 数学I 課 題提出も履 行	09314 数学I 課 題提出も履 行
97100 - 10A	97100 - 10A	97100 - 10A
9	8	9
10	9	10
	提出しました	1
	提出しました	
10	10	10
6	9	10
10	10	10

3 「朝学」実施による学習習慣の確立



3 成果

(1) オンライン授業の取り組み

- ① 一斉休校や分散登校においても、学習習慣を維持し、生活習慣の乱れを抑制できた。
- ② 授業の進度を遅らせることなく授業を行うことができた。
- ③ オンデマンド形式であれば、何度でも授業の復習が可能である。

(2) 習熟度別クラス・少人数クラス配置による「分かる授業」の実践

- ① 生徒の理解度と授業難易度の差を最小限にすることで、理解する喜びを感じる場面が増えた。
- ② 課題提出状況が一目瞭然のため、随時、生徒への声掛けや対応をすることができる。
- ③ 課外授業では、生徒の「わからない」に最後まで付き合うことで「わかる」喜びを共感した。
- ④ Forms による課題提出は、直接質問をするのが苦手な生徒からの質問を受けることができる。

(3) 「朝学」実施による学習習慣の確立

- ① 事前に取り組む範囲と期限をまとめた表を配布することで生徒が自発的に取り組み、テストなどの対策プリントとして活用することができた。
- ② 学び直しの機会を作ることができた。
- ③ 英語や国語においては反復することで、既習事項を振り返る機会を設けることができた。

4 課題

(1) オンライン授業の取り組み

- ① 特定の生徒は、一度もリモート授業等に参加しなかった。事後指導が難しい。
- ② 一斉休校においては、自宅に Wi-Fi 環境が整っていない生徒への対応が難しい。
- ③ スマホの容量語りなくなり見られない生徒や振り返りがしたい生徒もいたので、YouTube へのアップも考えて行く必要がある。
- ④ 誰かに見られていないので集中力の維持が難しい。録画の授業は教師とコミュニケーションがとれないのでやりにくいとの声があった。
- ⑤ 通信環境に左右されやすい（音声や映像がずれる、切れるなど）

(2) 習熟度別クラス・少人数クラス配置による「わかる授業」の実践

- ① アプリの特性上、定期的に ID やパスワードの入力が必要となるが、その入力を億劫に思う生徒が Teams の活用を止めてしまうことがあり、他の生徒との差が生まれてしまう。
- ② 課外授業への呼びかけに応じない生徒への対応。

(3) 「朝学」実施による学習習慣の確立

- ① 授業の中で定着するまで繰り返す時間がとれず、家庭学習等で復習する時間がさらに必要である。また、基礎学力が定着していない生徒への学習内容を理解させることに時間がかかり、全体を伸ばすには更なる基礎学力向上のための手立てが必要である。
- ② 朝学習の回答に関して、答えあわせの時に答えを写すだけの生徒がいる。

5 まとめ

(1) オンライン授業の取り組み

オンライン授業にしてもコロナ禍で休校になったとしても、生徒の学びは止めないという考えは常に持たないといけない。その為に教育現場のデジタル環境整備の要請と校内でのコロナウイルス感染防止対策の両方をしっかりと行う必要がある。

(2) 習熟度別クラス・少人数クラス配置による「わかる授業」の実践

習熟度別指導の成果をデータで表すことはそう簡単なことではない。それぞれの学校が生徒の実態に合った習熟度別指導を行う必要がある。このクラス別習熟度授業や少人数クラスでの授業を行う上で大切なことは、日々の授業の中ですべての生徒に目配りを行い、置き去りにされる生徒が出ないようにすることである。

(3) 「朝学」実施による学習習慣の確立

朝の学習をすることで、生活リズムが正しくなり、学習に取り組む準備ができるようになった。入試や就職試験でも力を発揮できるようになると感じる。

朝の短い時間で集中力が途切れにくいメリットがある一方で、夜遅く寝る生徒にとっては睡眠時間が足りず朝の学習も集中できないという声も挙がっている。

そういう生徒の生活リズムを整え、朝の学習の意義をしっかりと教え、真剣に課題に取り組ませる必要がある。